

東シナ海ブロック水産業情報

No. 118(2022年7月~9月)

増養殖情報

山口県	福岡県	佐賀県	長崎県	熊本県
	<p>○筑前海 【カキ養殖】 ・カキのへい死状況は、平年並み。</p> <p>○豊前海 【カキ養殖】 ・順調に経過。 【栽培関連】 ・「かぐや装置」によるアサリ稚貝生産、網袋による干潟での放流試験を実施中。 ・ガザミ、ヨシエビの中間育成→放流を実施。</p>	<p>○有明 ・マガキ養殖 4月中旬以降、本養殖が開始されている。今年度、九州北部の梅雨期間は6月11日～6月28日と平年より短く、豪雨による海域の低塩分化はみられなかった。その後、7月下旬の調査時に表層水温が生息適水温の上限である29℃を超えたため、表層付近のカキの斃死が危惧されたが、漁業者への聞き取り調査結果より、養殖中のカキは大量斃死を起こさず、順調に生育している。</p> <p>○玄海 ・アオナマコ、アカナマコ、マサバ、アカウニの種苗生産実施中</p>		<p>マダイ:エドワジエラ症、赤潮(カレニア・ミキモトイ)ブリ、I型αレンサ球菌症、マダイリドウイルス病、ノカルジア症 カンパチ: II型αレンサ球菌症 シマアジ: II型αレンサ球菌症、赤潮(カレニア・ミキモトイ) トラフグ:ギロダクチルス症、白点病、赤潮(カレニア・ミキモトイ)</p>

鹿児島県	宮崎県	大分県	沖縄県
<p>・8月上旬から下旬にかけ、八代海で <i>Karenia mikimotoi</i> による赤潮が発生し、魚類養殖業が被害を受けた。</p>	<p>・2021年に養殖カンパチ及び養殖シマアジで確認された <i>Lactococcus garvieae</i> III型(以下「III型」という)感染症について、2022年8月に養殖ブリでも確認された。また、ブリ及びシマアジに対するIII型の病原性を確認したところ、シマアジはカンパチと同様に強い病原性を示したが、ブリはやや強い病原性を示した。なお、カンパチにおいては2021年のワクチン試験により、市販ワクチンの効果が期待できないことを確認している。 ・2022年7月に宮崎県で初めてシラスウナギ人工種苗生産に成功した。</p>		